

農の広場

登米市農業委員会だより

第45号
令和7年6月



子供達の笑顔と一緒に

わたなべ ゆうこ
迫町新田に住む渡邊裕子さんは就農2年目。夫婦の勤務時間がまちまちなので家族一緒の時間を過ごしたいと、夫に相談「それなら好きな野菜を作ってみたら」との一言で決断、しかし嫁ぎ先は非農家で農地がありません。県庁に電話したところ改良普及センターを紹介され指導・助言を受け、新規就農希望者として農業委員会からも農地の紹介・斡旋と全面的なバックアップがありました。

昨年は、南方のぶどう農家さんで研修しながら、借用農地でトマトなどの野菜栽培に挑戦し、直売所での販売や摘み取り体験を実施しました。今年は、新たに農地を取得し、パイプハウス4棟でブドウ・ブルーベリー・ミニトマト・露地アスパラガスの栽培と、とても意欲的です。

将来は子育てママと一緒に働ける楽しい会社になりたいと夢を語ってくれました。

担当：三塚 芳毅 委員

市と議会へ意見書を提出

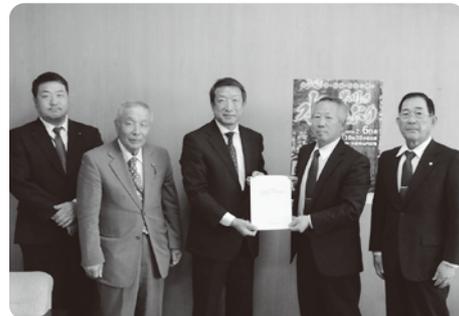
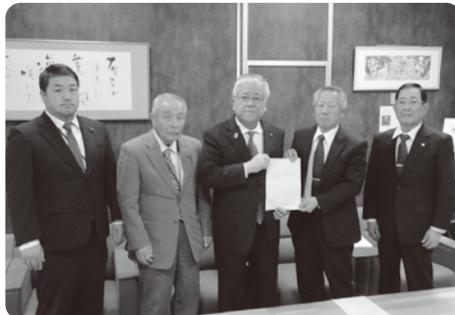
令和6年6月に食料・農業・農村基本法が25年ぶりに改正。特に食料安全保障を基本的理念と位置付けたうえで、「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、国民一人ひとりがこれを手に入れる状態」と定義されました。

登米市でも10年後の将来を見据えた地域計画が公告されました。これらを踏まえ農業委員会では次の重点4項目について、具体的な意見要望書を取りまとめ、令和7年3月市と議会へ提出しました。

- ① 農地利用の集積集約化について
- ② 遊休農地の発生防止解消について
- ③ 新規参入の推進について
- ④ 地域における農業を取り巻く問題点
～今後の地域計画～

市の政策に確実に反映していただくようお願いしました。

担当：門馬 一郎 委員



利用状況調査にご協力を

農地の利用状況を確認するとともに、遊休農地と農地の違反転用の実態を把握し、その防止や解消につなげることを目的に、農地利用状況調査（農地パトロール）を実施します。

今年は、7月中旬から9月中旬まで、農業委員、農地利用最適化推進委員、農地利用状況調査員が市内の農地を調査します。耕作放棄地や不作付け地などの遊休農地は、有害鳥獣や病害虫の発生の原因になるなど、周辺地域の営農をはじめ、生活環境にも悪影響を及ぼす恐れがあり、これらの解消につながる重要な調査となります。調査の際は農地に立ち入り、状況写真を撮影することもありますのでご理解とご協力をお願いします。



調査の様子

農業委員会の調査による遊休農地

令和6年度 遊休農地状況

	荒廃農地 (再生可能)	山林原野化	合計
迫町	20.2 ha	64.2 ha	84.4 ha
登米町	3.1 ha	13.9 ha	17.0 ha
東和町	5.2 ha	29.7 ha	34.9 ha
中田町	5.2 ha	20.3 ha	25.5 ha
豊里町	6.0 ha	9.3 ha	15.3 ha
米山町	3.7 ha	23.8 ha	27.5 ha
石越町	3.2 ha	17.9 ha	21.1 ha
南方町	9.1 ha	27.6 ha	36.7 ha
津山町	8.2 ha	24.8 ha	33.0 ha
合計	63.9 ha	231.5 ha	295.4 ha

農業委員会で許可などを行った面積

令和6年度 農地許可申請の審議実績

	農地法第3条 耕作目的の売買・ 貸借等	農地法第4条 所有者自身による 農地転用	農地法第5条 権利異動を伴う 農地転用	農業経営基盤 認定農業者等へ の売買・貸借等	合計
迫町	22.3 ha	0.1 ha	0.7 ha	104.5 ha	127.6 ha
登米町	4.1 ha	0.0 ha	0.5 ha	33.3 ha	37.9 ha
東和町	5.4 ha	0.2 ha	1.3 ha	23.4 ha	30.3 ha
中田町	10.7 ha	0.2 ha	2.6 ha	168.4 ha	181.9 ha
豊里町	5.4 ha	0.1 ha	0.2 ha	70.3 ha	76.0 ha
米山町	6.4 ha	0.1 ha	2.5 ha	186.5 ha	195.5 ha
石越町	4.1 ha	0.0 ha	0.6 ha	72.7 ha	77.4 ha
南方町	9.8 ha	0.2 ha	1.3 ha	143.5 ha	154.8 ha
津山町	0.2 ha	0.0 ha	0.1 ha	0.1 ha	0.4 ha
合計	68.4 ha	0.9 ha	9.8 ha	802.7 ha	881.8 ha
件数	146件	16件	105件	1,000件	1,267件

農業委員会委員親睦会研修会を開催

2月14日中田庁舎旧議場において、委員親睦会の研修会が開催されました。

講師に参議院議員の桜井充氏を招き、「食料安全保障と農業の役割・持続可能な農業を目指して」と題して1時間超に渡って熱く語っていただきました。

農業委員24名、農地利用最適化推進委員30名は、今の厳しい農業情勢の中ではありますが先を見据えた農業を知ることができました。

担当：五十嵐 幸喜 委員



現況届は、年金を受給するために、毎年提出が必要となる届出です。

現況届は 忘れずに提出を！

農業者年金を受給されている方は、現況届をあなたの住所地にある総合支所又は農業委員会に、必ず提出してください。

現況届が届く時期は…

現況届は、**5月末頃**に基金から直接受給権者あてに送付します。ただし、年金の支払いが差止中の方等には送付していません。

現況届の提出時期は…

現況届は、受給権者又は代理人が、署名・記入して、**6月中**に総合支所又は農業委員会に提出してください。

現況届の提出を忘れると…

提出期限内に現況届を提出されなかった場合は、**11月以降の年金の受給が遅れる又は受給できなくなる**ことがありますので注意ください。

**出し忘れに
注意！**

前年度の現況届を出し忘れて年金が差止中の方（現況届が届かない方）は、農業委員会にある「手書き用現況届」を提出すれば年金の支払いが再開します。

農業者年金加入者を紹介します!!

かず や
和也さんは、10年間勤めていた団体職員を6年前にやめて就農しました。

現在は、父親と二人で水稻10ヘクタールの経営を営む一方、整備士の経験を活かし委託された農業機械の整備を行っています。

これからは認定農業者となり、面積の拡大を図っていきながら地域の担い手になっていきたいと話してくれました。農業者年金については地元の農業委員さんから詳しい制度の説明を受け、老後のために加入しました。

今後の農業者としての活躍を期待します。

農業委員会では、農業者年金の加入推進を行っています。詳しい内容につきましては、農業委員・農地利用最適化推進委員・農業委員会事務局までお問い合わせをお願いします。

担当：浅野 和宏 委員



さとう かず や
迫町森 佐藤 和也さん

県農業委員会だよりコンクールで優秀賞

優秀賞



宮城県農業会議の令和6年度農業委員会だよりコンクールにおいて優秀賞を受賞しました。これも取材にご協力いただいた皆様、そしていつもご愛読いただいている市民の皆様のおかげです。改めて感謝申し上げます。

今後も皆様に広く情報を提供できるよう紙面作りに精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。ご意見ご感想をお待ちしています！

編集後記

令和六年度末に公告された地域計画は、地域の実情を踏まえ毎年度見直しされます。担い手の確保、基盤整備とスマート農業の実用化等、今後の地域の農業をより具体的に検討する必要があります。

広大な農地を有する登米市の農業の発展は、未来を担う子どもたちの希望に繋がるはず。農業と関連する産業の誘致と雇用の確保、農業体験の重視、農村移住を受け入れる場の設定など、関係機関と連携して進めていかなければならないことが山積みです。

これからも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集委員

委員長 五十嵐 幸喜
副委員長 浅野 和宏
委員 三塚 芳毅
佐藤 久順
小野 鉄子
高橋 健之
鹿野 昭子
門馬 一郎

お米の量 Q&A 備蓄米の100万tってどれくらい？



1人あたり1日2杯のご飯を食べると1ヶ月でのお米の消費量は約5kg。日本の人口は約1億2千万人だから、1ヶ月に60万t消費している計算になるね。100万tは約2ヶ月で消費される量。多く感じるかな？少なく感じるかな？ちなみに昨年1年間の生産量は679万tだったぞ。